

<近藤彩先生の発表概要>

【講演】仕事で必要となる能力の育成—理論・企業・教育の融合—

日本語を就労目的で学ぶ人の数や、日本語を使って仕事をしている人の数は、日本国内外で増えています。これまで、多くの高等教育機関では日本語学習とキャリア形成は別のものと考えられてきましたが、大学で学ぶ専門知識や教養を、日本語を用いながら仕事で具現化することは重要と考えます。

日本語学習者が自分自身の力を存分に発揮するために、教師も仕事で必要となる能力について考えていただきたいと思います。本講演では、学習理論、企業の実態、教育実践と、そららの融合の必要性についてお話します。NHK WORLDの番組“Easy Japanese for WORK”（しごとのにほんご）についてもご紹介いたします。

【ワークショップ】「ケース学習」で学ぶコミュニケーション：問題解決や人間関係構築を目指して

ワークショップでは、講演で紹介する「ケース学習」について体験をしていただきます。日本語母語話者と非母語話者が働く職場でインタビューをし、その内容から「ケース教材」を作り、「ケース学習」を開発しました。討論をしながら、ダイバーシティの職場での問題を発見、解決していく過程を経験していただきます。

<金孝卿先生の発表概要>

【講演】キャリア形成につながる日本語教育の実践デザイン—協働学習の理念に基づいて—

日本で働く外国人数は2019年には165万人以上と過去最多を記録しました。日本語を使って働く外国人材の就業や働き方が多様化し、就労者に対する日本語教育の充実が図られています。留学生に対する日本語教育においても、日本社会への橋渡しの役割がより一層求められるようになりました。講演では、留学生を含む外国人材の「学びの継続」を支援する必要性について述べます。その上で、大学と企業の協働による実践や、外国人社員の社外での学びと職場を結ぶ実践を紹介し、キャリア形成につながる日本語教育の実践デザインについて考察します。日本人と外国人がともに学ぶための「ケース学習」の新刊についてもご紹介いたします。

【ワークショップ】課題達成のプロセスで学ぶコミュニケーション：SWOT分析を例に

ワークショップでは、人材育成のためのビジネスコミュニケーション教育の方法論として、仕事で求められる「課題（タスク）」を達成するプロセスの中で日本語力をつけるといったアプローチを取り上げます。企業でよく用いられるSWOT分析を取り上げた学習活動を体験していただき、振り返りを行います。その上で、現実社会での言語行動を想定した学習活動のデザインについて解説します。